



「未来の幸せ」を考える② ～子どもの命を全力で大人が守ること～

校長 山田 哲哉

6月の全校朝会で、映画「世界の果ての通学路」（2013年フランス）をスライドで紹介しました。毎朝、時には命懸けで登校する世界の子どもたちの話です。

片道15kmを2時間、象に警戒しながら妹と通うケニアの男の子。片道18kmを1時間半、妹と一緒に馬で通うアルゼンチンの男の子。月曜の朝と金曜の夕方、片道22kmを4時間かけて、自宅から寄宿舎まで山道を歩くモロッコの女の子。第2人が車椅子を押して、片道4kmを1時間15分かけて通うインドの男の子。4人とも、「未来の幸せ」に向けて、叶えたい夢や目標があるから通っている子どもたちです。

私は、子どもたちに、「学校に通える幸せを感じていますか」と問い掛けました。答えは、658人それぞれの子どもの心の中にあります。

こぼりっ子は、幸せな学校生活を送っています。毎日、地域の皆さんが登下校の様子を見守ってくださっています。毎朝、担任が黒板に子どもたちへのメッセージを書き、「おはよう」と笑顔で迎えています。そして、日々、楽しい授業を工夫しています。

転んでけがをしたら、「大丈夫？」と気遣い、保健室まで付き添ってくれる友達がいます。発表すると、顔をしっかり向けて聞き、拍手してくれる学級の仲間がいます。様々な分野の専門家がゲスト・ティーチャーとして、いろいろなことを教えてくださいます。

ほんの一例を示しましたが、このように、こぼりっ子は多くの大人に支えられ、多くの友達と支え合い、かかわり合いながら、健やかに育っています。

このこぼりっ子の幸せな学校生活を守りたいと、心から願っています。

桑田佳祐氏が、自分と同年（66歳）の世良公則氏、佐野元春氏、野口五郎氏、Char氏に声を掛け、「時代遅れのRock'n Roll Band」という曲をリリースしました。私の世代にとっては、夢のようなメンバーです。感染症禍、軍事侵攻などが重くのしかかる今の閉塞感を一掃する、元気の出る曲です。軽快で爽やかですが、歌詞には深みがあります。

Char氏が歌うパートの歌詞に「**子どもの命を全力で大人が守ること。それが自由という名の誇りさ**」という一節があります。この部分を繰り返し聴くたびに、私の脳裏には、日々のこぼりっ子の本気で学び、本気で遊ぶ姿が思い浮かびます。

朝、駆け寄って来て立ち止まり、お辞儀をしながら「おはようございます」という姿。授業中に床に足をしっかり着け、背筋を伸ばして先生や友達の話の聞く姿。「話したい！先生、僕に、私に言わせて！」とばかりに手をまっすぐに挙げる姿。ゴールを目指して、ひたむきに走る姿。マスク越しに、ひたむきに応援する姿…。

この曲を聴きながら、改めて、「私たちは、このひたむきな子どもたちの大切な命を預かっているのだ」という思いを新たにしています。こぼりっ子が、「今、学校に通える幸せ」を感じ、「未来の幸せ」に向けて夢や目標をもつことができるように、私たち大人が、全力で子どもたちの命を守り、全力で応援したいものですね。